

公共工事等事故情報

事故分類	物損公衆災害	発生日時	平成 30年 4月 5日(木曜日) 20時 50分			工事関係者区分	元請け
事故区分	車両・自転車等損傷	性別	—	年齢	—	業種区分	土木
被災程度	(前輪右)ホイールの損傷			事故レベル	I	休業見込日数	なし
工事概要	下水道工事(管布設)						
事故概要	路面の仮復旧を行い交通開放していたが、仮復旧舗装面が下がり通過車両が既設舗装面との段差でホイールを損傷させた。						
事故原因	事故当日の夕方の雨で、人孔内に雨水が流入し人孔内に滞水したことで、管口の未処理箇所から土砂が雨水の影響により人孔内に流入し人孔周りの舗装が沈下した。						
改善策	日々のKY活動時に作業従事者へ作業工程を詳細に周知し、再発防止研修を行った。						

事故状況図



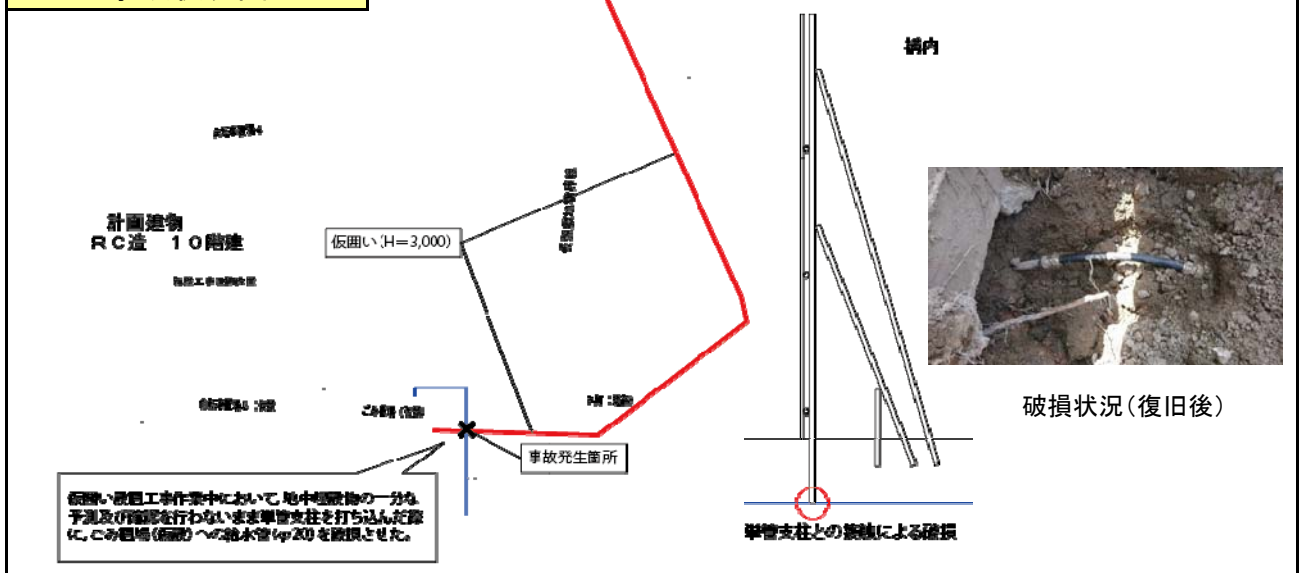
改善状況図



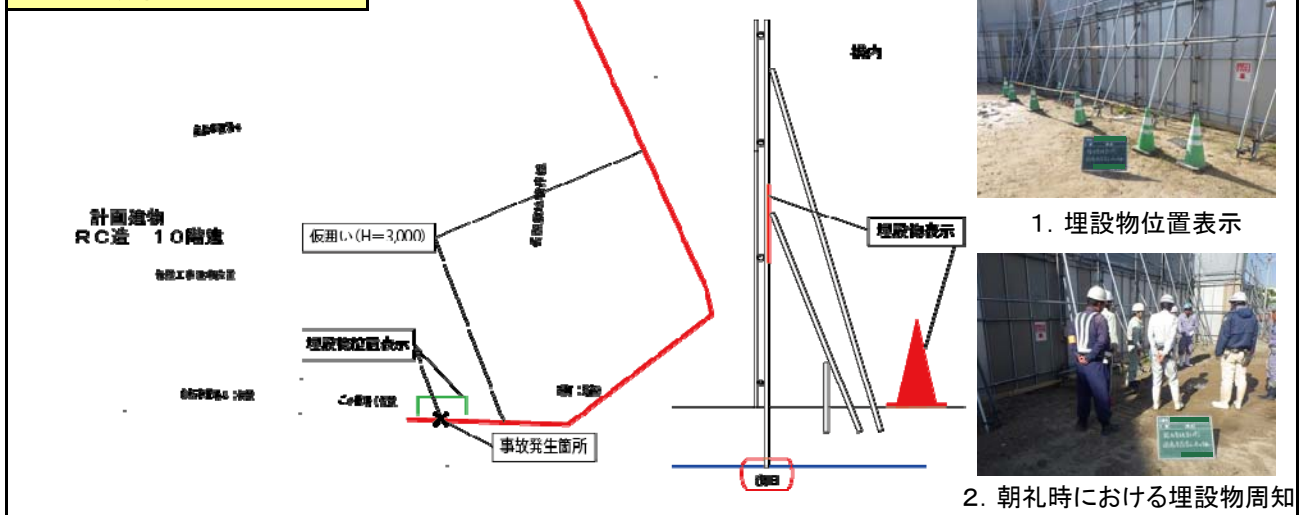
公共工事等事故情報

事故分類	物損公衆災害	発生日時	平成30年 4月 7日(土曜日) 15時00分			工事関係者区分	一次下請
事故区分	埋設物等損傷	性別	—	年齢	—	業種区分	建築
被災程度	給水管(PP管φ20)破損			事故レベル	I	休業見込日数	—
工事概要	市営住宅(10階建88戸)の新築工事						
事故概要	仮囲い設置作業中において、単管を地中に打ち込む際にゴミ置場の水栓に続く給水管(φ20)を破損させたもの。						
事故原因	新築工事とは別途工事にてゴミ置場及び給水管の整備を行ったが、新築工事の仮囲い設置作業時において事前に監督課より提供された図書と現地での照合、確認が不十分であったことと、元請業者が立会にて注意を払うように指導していなかったこと。						
改善策	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地下埋設物近接箇所の作業において、事前に提供資料等と現地で照合確認を行い、試掘調査などでの目視による確認及び埋設物位置の表示を行うように見直し、今後の再発防止に努める。 2. 日々のKY活動時に作業従事者の安全に対する理解を深めるため現地にて埋設物の確認・周知を行うなどの改善を行った。 						

事故状況図



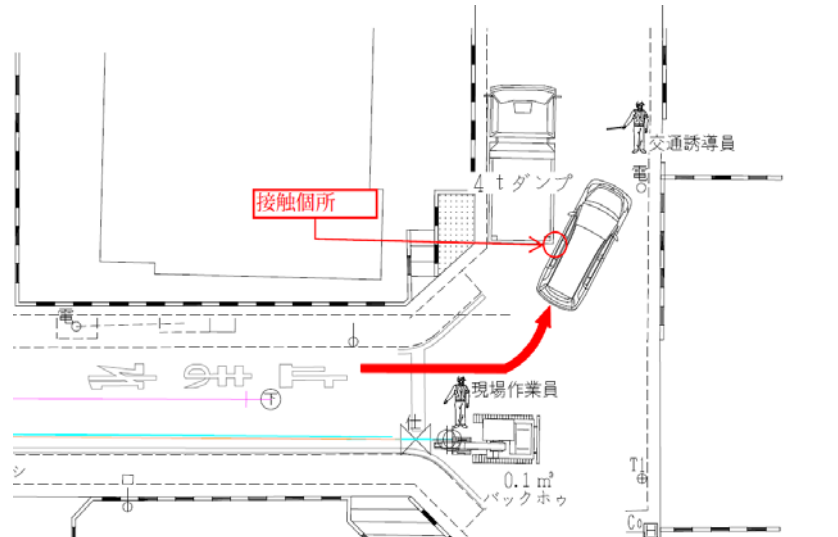
改善状況図



公共工事等事故情報

事故分類	物損公衆災害	発生日時	平成30年4月12日(木曜日)14時30分			工事関係者区分	二次下請
事故区分	両・自転車等損	性別	—	年齢		業種区分	土木
被災程度	車両左後ろドアに15cm程度のへこみ			事故レベル	I	休業見込日数	-
工事概要	配水管布設工事						
事故概要	埋戻し作業に使用する資材を、ダンプトラックに積載し交差点付近に停止していた時、通過車両が接触し左後方ドアの側面を損傷したもの。						
事故原因	<ul style="list-style-type: none"> ・工事に使用する車両は、作業区域(占有帯)に配置して作業を進めていたが、作業工程上、新設管と既存管を接続する作業のために、埋戻し作業を一時中断し工事区域外の交差点付近に停止させていたため。 ・交通誘導員の誘導の合図で一般車両を通過させていたが、停止の合図が間に合わなかった。 						
改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・工事に使用する車両は、一時的な作業工程でも作業区域(占有帯)内に配置するような作業手順の見直しや一般交通の安全な走行を確保するために安全訓練を実施した。 ・作業工程上、一時的な作業工程でも作業区域(占有帯)内に工事車両を配置するよう見直すこととした。 						

事故状況図



改善状況図



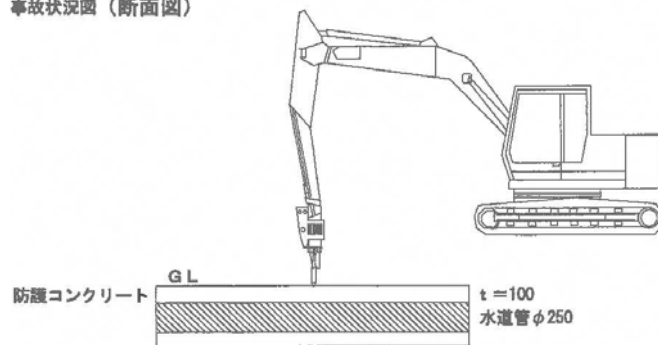
再発防止に向けた安全訓練を実施する。

公共工事等事故情報

事故分類	物損公衆災害	発生日時	平成30年4月20日(金曜日) 15時 30分			工事関係者区分	元請け
事故区分	埋設物等損傷	性別	—	年齢	—	業種区分	土木
被災程度	φ250mm水道管破損			事故レベル	Ⅱ	休業見込日数	—
工事概要	道路改良工事						
事故概要	本工事に支障となるため防護コンクリート上部の研作業を実施した際に、10cm厚さの防護コンクリートを貫通し、水道管を破損させたもの。						
事故原因	<ul style="list-style-type: none"> ・水道管の防護コンクリートとは思わず、同時に露出したコンクリート構造物(旧水路構造物)と同一と思い込み、地下埋設図面や占有者へ確認をせずにブレーカーによる研作業を行ったため。 ・水道管は道路端に布設されていると思い込んでいたため。 ・ブレーカーにて作業中に指揮者が離れたため。 						
改善策	<p>安全実施研修を行い、下記を実施することとした。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現場着手する前に、地下埋設物の位置について地下埋設図面等にて現場との照合確認を実施する。 ・KY活動時と休憩後の作業再開する時に、埋設状況を作業従事者全員に周知し、安全意識の向上を図る。 						

事故状況図

事故状況図(断面図)



改善状況図



公共工事等事故情報

事故分類	死傷公衆災害	発生日時	平成30年 4月25日(水曜日) 7時40分頃			工事関係者区分	元請け
事故区分	第三者人身	性別	女性	年齢	59	業種区分	設備
被災程度	右手首の骨折			事故レベル	Ⅱ	休業見込日数	約2か月
工事概要	空調設備および換気設備の更新工事						
事故概要	清掃員の女性が館内清掃をしていた際に、通路に漏えいしていた潤滑油で足を滑らせ転倒し、右手首を骨折したもの。						
事故原因	事故前日、平成30年4月24日の夜間工事において、天井裏にて空調設備の撤去作業を行っていたが、空調冷媒管を残置した状態で、天井開口部の養生を行い退庁してしまった。このため、残置している冷媒管の切断部より事故現場付近へ潤滑油が漏えいした。						
改善策	<ul style="list-style-type: none"> 撤去作業において、系統ごとに室内機及び配管をすべて撤去した状態で作業を終了するよう工程を作成する。 工程上やむを得ず配管類を残置する場合は、監督員と協議を行い、漏えい防止策を実施したうえで作業を終了する。 管末のキャップ止め等による処置を行い、残存する配管内の量を想定し、油受け皿を管末の直下に設置する。 						

事故状況図



現場状況写真

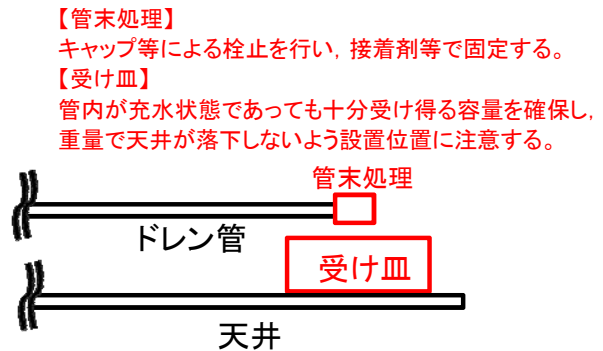
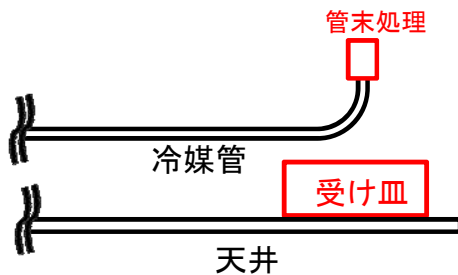


天井状況写真

改善状況図

赤字:改善部分

残置管発生時の対処例



- ※原則として、室内機及び配管をすべて撤去した状態で作業を終了する。
- ※冷媒管の処置は、対象配管システムのパイプシャフト内縦配管を撤去していることを前提とする。
- ※ドレン管の処置は、対象配管に流入がないことを前提とする。

公共工事等事故情報

事故分類	物損公衆災害	発生日時	平成30年4月24日(火曜日) 13時 30分			工事関係者区分	元請け
事故区分	車両・自転車等損傷	性別	—	年齢		業種区分	土木
被災程度	後輪タイヤ1本パンク			事故レベル	(技術監理課で記入)	休業見込日数	-
工事概要	下水道本管更生工事						
事故概要	舗装版(15cm)をバックホウで取り壊すための舗装切断を細部に切断した箇所が、通過車両の影響等で舗装版の一部が路面上に突起し、通行していた車両のタイヤを損傷させた。						
事故原因	通行車両が多い道路で、舗装版取り壊し作業前日の夜に、舗装取口を走行車線に設けたこと。						
改善策	・交差点部において舗装取口を設ける際、舗装版取り壊しを行う当日に設けることとした。						

